

わかはく講座

鉄製農工具からみた 若狭と周辺の古墳時代後期



講師／**うおづ ともかつ** 氏
魚津 知克 氏
福井県教育庁
埋蔵文化財調査センター 主任

プロフィール

東京都生まれ、埼玉県育ち。京都大学入学後、若狭・播磨・美濃の古墳発掘に携わる。京都大学大学院文学研究科 博士課程満期退学後、大手前大学史学研究所等職員を経て、2021 年から福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに勤務、現在に至る。

著作

- 2012 年「鉄製生産用具からみた古墳のはじまり」『菟原Ⅱ』『菟原』刊行会
- 2012 年「漁具と漁業生産」『古墳時代の考古学』第 5 巻 同成社
- 2017 年「鉄製農具」『モノと技術の古代史』金属編 吉川弘文館
- 2017 年「日本海沿岸地域の鉄製生産用具が示す二つの特質とその背景」『大手前大学史学研究所紀要』第 11 号 大手前大学史学研究所
- 2017 年「『海の古墳』研究の意義、限界、展望」『史林』第 100 巻第 1 号 史学研究会
- 2022 年「総括・海辺に築かれし古墳―列島の古墳時代王権・政権と若狭―」『美浜町歴史シンポジウム記録集 15 若狭の海辺に築かれし古墳』美浜町教育委員会
- 2023 年「五世紀末における鉄製工具の画期と新原・奴山古墳群」『沖ノ島研究』第 9 号「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺跡群保存活用協議会

ほか

古墳時代には、鍬・鋤・鎌・斧・鑿・やりがんなといった、さまざまな鉄製農工具が使われました。

これらの鉄製農工具は、いくつかの種類を一括して古墳に副葬することも多く、当時の技術を知るうえで貴重な研究資料となっています。

若狭でも資料が蓄積され、特に後期古墳の副葬様相について、周辺地域との比較から大変興味深い事実が分かってきました。

新たな古墳時代の地方社会像を切り開く可能性がある資料について、いっしょに考えていきたいと思います。

日時／令和 7 年 **7 月 20 日** (日)
| 3 時 30 分 ~ | 5 時

会 場／福井県立若狭歴史博物館 講堂

聴 講 料／無料

事前申込／不要

問合せ先／福井県立若狭歴史博物館

TEL. 0770-56-0525

住所. 福井県小浜市遠敷 2-104

